

第43回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：平成27年11月9日（月） 13：00－14：45

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、中須賀委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

島尻内閣府特命担当大臣(宇宙政策)、酒井内閣府大臣政務官、松山内閣府事務次官、石原内閣府審議官、小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、高見宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、松井宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官

4. 議事次第

(1) 各部会の検討状況について

(2) 宇宙基本計画工程表の改訂（素案）について

5. 議事

冒頭、島尻大臣及び酒井政務官から以下のような挨拶があった。

島尻大臣：

- ・ 今年1月に宇宙基本計画を策定して以来、宇宙政策は様々な広がりを見せてきた。私としても、10月13日に官邸で開催された「経協インフラ会議」において、「宇宙システム 海外展開タスクフォース」を立ち上げたことを報告した。
- ・ また、10月26日には、ITやベンチャー企業など幅広い分野の方々が集まる「スペースタイド」というイベントを内閣府が共催で行い、私も参加した。こうした海外展開や新産業創出の取組を通じて、宇宙産業が稼ぎ頭になることが期待されている。
- ・ 工程表改訂に向けて、宇宙基本計画が絵に描いた餅とならないよう、施策の一層の具体化を進め、年末をめどに工程表を改訂するよう安倍総理より指示を受けている。
- ・ 本日も活発なご審議をお願いしたい。

酒井政務官：

- ・ 宇宙政策は、子供のころには夢物語であったが、ここまで具体化してきていることに感動している。いずれも重要な政策であり、しっかり推進すべきである。
- ・ 加えて、私は防災の担当でもあり、防災面でも宇宙の利用が重要になっている。
- ・ 私自身も愛知県出身の政務官として、航空宇宙産業の将来には大きな可能性があり、日本の技術力を生かしていくべきである。

(1) 各部会の検討状況について

宇宙安全保障部会の審議状況について、資料1に基づいて中須賀部会長から報告を行った。宇宙民生利用部会の審議状況について、資料2に基づいて中須賀部会長から報告を行った。宇宙産業・科学技術基盤部会の審議状況について、資料3に基づいて山川部会長から報告を行った。主な意見等は以下の通り。

○資料2の民生利用部会の議事要旨の中の6ページ目にあるように、宇宙インフラの提供者と、その利用者との距離が非常に大きいことが宇宙利用の進まない原因の1つであるということ、まさに、これはそのとおりと考えている。よって、そのニーズをいかに汲み上げて、インフラ提供者側との距離を縮めるかということ、恐らく念頭に置いて、いろいろ活動されているわけであるけれども、例えば、防災や農業など、分野ごとに連絡会議のようなものがあり、担当している役所や各機関が集まる場が設定されているものと思われるが、宇宙の分野に関しては、JAXAにもいろいろ情報が集まると考える。JAXAを含め、そのようないろいろなニーズが集まるところとも連携をより強化していく必要があるのではないかと。

また、今後、内閣府の調査分析機能も強化するということが、それも意識した上で、今までやってきた過去の調査の共有に加えて、進行中の生の声の吸い上げ方というのも重要であるため、双方向にとって有益となるような形で、関連各機関との連絡の場を密にしていくべきと考えるが、これについては現在どのような状況か。(山崎委員)

●委員にご指摘いただいた、連携が非常に弱いという意識がこの民生部会の中でも出てきており、例えば、防災であれば、まずは宇宙を含んだ防災について拠点をどこに置くのかということ。それから、地方自治体を含めたいろんな防災のニーズをどう集めて、それをどのようにパッケージ化して対応していくのかという部分の検討がまだ弱いという議論になっている。

例えば、田村委員いわく、例えば、大学の関係者のように、ずっと防災のことを検討している人たちが、まだまだ防災の意思決定に入ってきていないという問題がある。そのような意思決定の場に研究者が入っていく必要があるというような御指摘があった。

加えて、基本的には、防災というのは、経験や知見がたまっていく場がないといけないと思うが、その場をどう作っていくのかということがすごく大事なテーマであり、JAXAや研究者等を含むサステイナブルな組織としてどこに置いていくのかを今後検討する必要がある。また、先ほどご紹介したS-NETというのが、まさにそういうことを1つやっていこうという取組と言える。これは、主として民間ベースであるけれども、S-NETという場にシーズとニーズの間をつなぐ形で民間企業が入っていくという形を

想定している。一つの核となるものであるので、我々としてもエンカレッジしていきたい。(中須賀委員)

○みんなで情報を共有したり、たくさんの人が集まったりすることで、ニーズがわかっていくということはあるのだろうか。本当は、たくさん集まったら、余計な時間を費やすだけではないか。むしろ、誰かしかるべき少数の人が集まって、それで、誰も気がつかないようなことを自分のほうからつくり出していくというほうが実践的なような気がするのだが、どうか。(葛西委員長)

●それは、場面によって違ってくるのではないか。委員長ご指摘のような形が非常に役に立つ世界もあれば、今回のような場の設定が役に立つ場合もある。(中須賀委員)

OS-NETは人探しのためのフレームワークと御理解いただきたい。まだ人間が足りないということで、ほかの世界からリクルーティングしなければいけないということに尽きている。S-NETについても、海の向こうでIT企業が宇宙の世界に入ってきて、その流れで今、日本のベンチャーやベンチャー・キャピタルといった新しいほかの世界の人たちが宇宙と言い出した。そこを捉えて、実行能力のある人を探し出して、仲間に引き入れるというのが最初にやらなければいけないことだと考えている。(小宮宇宙戦略室長)

(2) 宇宙基本計画工程表の改訂(素案)について

宇宙基本計画の工程表改訂素案について、事務局より説明があり、審議を行った。審議の結果、「宇宙基本計画工程表(平成27年度改訂)(素案)」については、「国民的な理解の増進」等について意見があり、一部修正の上、委員会として了承された。なお、今後の修正については委員長一任となった。

○この総括表に記載されているのは軌道上の運用の期間であるということによいか。(中須賀委員)

●ご理解の通り。(小宮宇宙戦略室長)

○40番の「国民的な理解の増進」について。平成27年度の達成状況については、JAXAだけではなくて、全省庁の活動だと理解しているので、それこそ、例えば、先ほど御報告があったSPACETIDEとか、あるいは現在募集中の宇宙利用大賞とか、そのような取り組みについては平成27年度の達成状況に書いたほうがいいのではないかと考えるがどうか。(山川委員)

●もともと、人材の話は高等人材と初等人材と分けていて、40番の「国民的な理解の増進」については、初等人材について記載をすることと整理している。そのため、文科省の取組をベースに構成をされていて、そのため担当省庁は文科省というふうになっている。ここに内閣府の取組であるSPACETIDEや宇宙利用大賞を入れられるかは難し

いかもしれない。(小宮宇宙戦略室長)

●宇宙基本計画の本文で、40番に対応する記載には、どちらかという、特に若い方々の人材育成に中心を当てた表現になっている。人材一般については、40番というよりは、39番が該当するような書き方になっている。(中村宇宙戦略室審議官)

○それであれば39「国内の人的基盤の強化」に追記してはどうか。(山川委員)

●承知した。では、39番の達成状況、実績の中に、S-NETを記載することとし、改訂する文章を考える。(小宮宇宙戦略室長)

○確かに宇宙基本計画本文を見ると、39と40の違いはよくわかる。人材の育成に関して、高等教育を含めた全体的な部分と、小中学校との初等教育と2パラになっているのだが、この工程表だけを見たときには、国民的な理解の増進は政府全体で行うべきことであるのに文科省だけが担当になっていることに疑問を持った。今回工程表だけを見ると誤解を招くため、小さな字で小中学校等における教育機会の提供のようなことを一言入れておくとよいのではないか。(山崎委員)

●検討したい。(小宮宇宙戦略室長)